



# 燕市「読解力」育成プロジェクト通信

## 読解力育成プロジェクト 全体研修会

11月22日（火）に読解力育成プロジェクト全体研修会を開催しました。会場校となった燕西小学校では6年3組の算数の授業が公開されました。

市内小中学校からたくさんの先生方にご参加いただきました。講師の新井紀子様からはオンラインで授業を参観いただき、ご講演と授業の講評をいただきました。

### ◎田んぼコースの道のりは、 他のコースに比べてどれくらい長いのか？

児童の感覚を大切にする

「他のコースよりも時間がかかった」

「田んぼコースは曲がっている場所が多い(地図)」

どうやって確かめる？

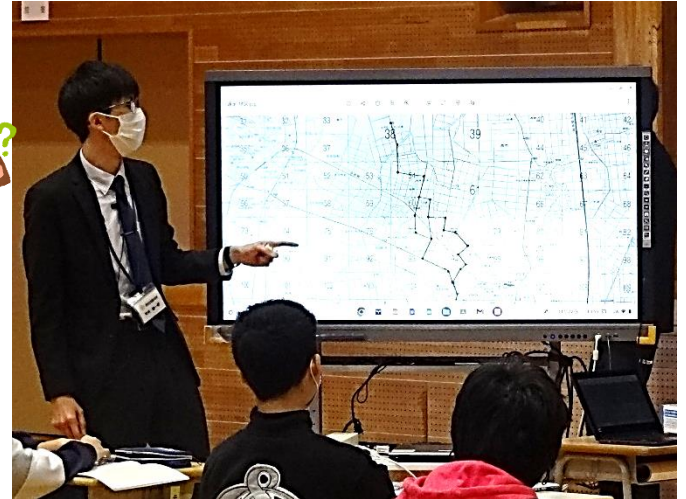
既習事項を使う

「田んぼコースをまっすぐにすればいい！」

「コンパスで地図の長さをとっていきましょう！」

「縮尺が使える」→「実際の長さが分かる」

新しい知識を活用



「田んぼコースは『どれくらい』長いのか？」を曲がりくねった地図から読み取る『**感覚**』、まっすぐに描きなおして『**そろえて**』比較する、**縮尺(比)**を利用して実際の長さの『**数値**』で比較するなど、「どれくらい」を様々な方法で確認し、説明させたいと授業者は構想しました。既習事項の活用、RSの視点(イメージ同定、推論など)を取り入れた授業づくりを提案していただきました。



## 新井紀子様からの授業の講評

○児童の「田んぼコースはとても長い」という印象(感覚)を、縮尺(比)を使うという科学的方法で確認させようとしていた。そして比の「よさ」を実感させようとしていた。

「子どもたちの実感と算数がつながる」非常によい計画だった。

○どうやったら調べられるかということ子どもたちに言わせようとしたことは非常に素晴らしい。  
しかもそれに対して、「縮尺を使って比べると調べられる」、「コンパスを使って長さをとり、足し合わせてまっすぐにすれば比べられる」という考えが出たのは「画期的」、「燕西小の子は素晴らしい」

▲しかし、「調べ方」と「実際の作業方法」が結びつかない児童もいた。

箇条書きで作業方法を示す等のサポートがあるとよい(できれば絵も入れて)。

▲ワークシートに工夫が必要。一番調べさせたい田んぼコースを調べる直線をワークシートの一番上に準備しておくとうかった。

▲作業量が多すぎると、児童に理解してほしいことや感じてほしいことが印象に残りづらくなってしまう。

### この授業で何をさせたいのか明確にする

普遍的によい授業はない

全ての児童生徒が参加できる授業を設計する

クラスの全員が「今日は〇〇〇〇を勉強したな」と記憶に残る授業を設計する

新井先生の講演は「つばめつながる広場 HP」でご覧いただけます。

(1か月の期間限定公開となります。)



## 公開授業についての感想

「正確ってどういうこと?」、「長さって、どの長さ?」など、1つ1つクリアにしていく点がよかったと思う。この問い返して助けられた児童がいたと思う。

日頃から、子どもたちの発言を大切にされていることが伝わりました。子供の発言を繰り返して受け止め、大切な言葉を分かりやすく板書するところを私も見習いたいと思いました。

子どものズレが出やすい単位換算や、縮尺の使い方、 $19500 \times 10$  と  $10 \times 19500$  の違いなど、子どものつまづきを予測しながら指導しているなあと感じました。

## 講演についての感想

明日から一つずつでも取り入れていきたいです。特に「この授業で何をさせたいのかをはっきり」←こんな当たり前のことが私はダメダメでした。頑張ります!

読解力の育成について、様々な方法を示していただき、よく分かりました。今後、何をすればいいかや、授業をどう改善していけばよいのかなど、ぼんやりしていたことがクリアになったような気がします!

目からウロコ…というか、前回よりもさらに詳しく授業の組み立て方や、教科書の読み解き方を説明していただきました。自分の授業力に不足を感じます。授業準備から見直そうと思います!



つばめつながる広場 HP から中学校区研究会の各校の指導案、レポートをご覧いただけます。ご活用ください。

